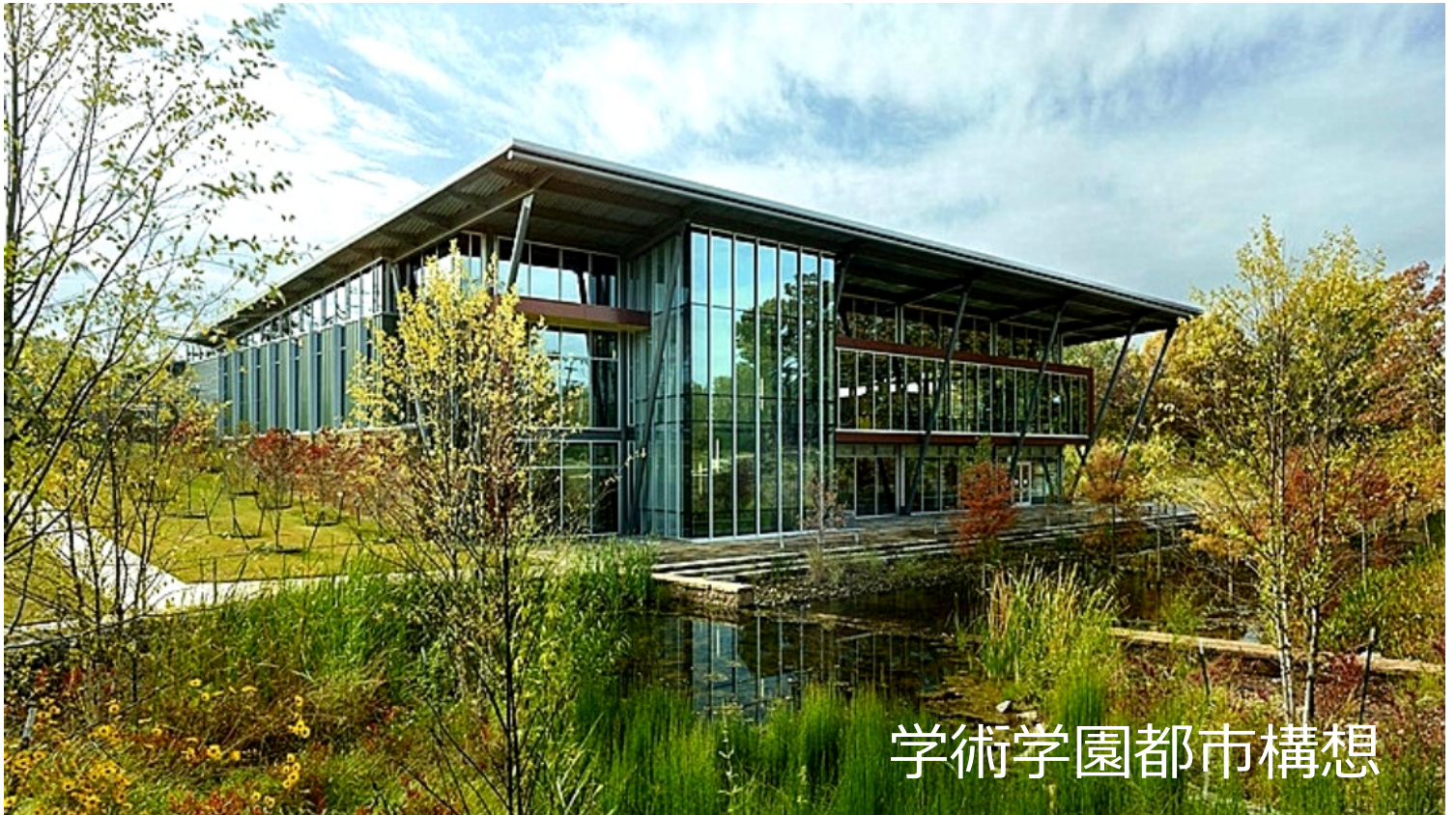


パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2016年4月1日 151号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



学術学園都市構想

社会インフラ整備の中でも、未来への投資である学園施設の構想は、希望を創り出す重要な部分。これは図書館（想像図）

地球環境を守るパンタナールの砦として

今日、地球環境問題に関する報道は、質・量ともに飛躍的に増し
てきています。人類の存亡にも関わる地球規模の深刻な問題であり
ながら、国家間の利害調整まで必要であることから、解決の糸口を
見つけることだけでも、決して容易なものではありません。
地球の肺と言われる、南米の酸素供給地であるアマゾンと、それ
に隣接するパンタナール地域は、世界自然遺産に指定されながらも、
自然破壊が日増しに深刻さの度合いを増しています。

パラグアイは、南米のほぼ中心に位置し、河川が人間と自然とに
とって重要な役割を持つ内陸国です。鉱物資源は乏しく、現在は牛
の放牧と大豆栽培に代表される農牧業が主産業です。かつて二十世
紀には大規模に牧場と農地を開墾し、それゆえ森林の伐採面積の比
率が世界ワーストクラスとなっています。

パンタナール地域の南部に位置するレダ基地では、南北米福地開
発協会と、現地設立の非営利財団法人とが、パンタナール研究所
（中田実所長）を創設し、パンタナールの生きとし生けるものが幸
せに共存できる、モデル的な福地村の建設を目指してきました。

今回は、パンタナール研究所における、本来の自然が持つ潜在力
を活かし、自然環境と人間の生活を調和的に発展させようとする
現場での様々な試みに基いて立案した、未来構想の特色ある部分を
紹介いたします。これは将来の学術学園都市として、レダ八万ヘク
タールの核心部ともなる一大研究機関を構成するものとなります。

今世紀初頭、レダプロジェクトの発足当時、環境問題を中心とし
て、パラグアイ共和国首都のアスンシオンにおいて、北米のブリッ
ジポート大学等を中心とした学術会議を開催し、多くの論文提出と



意欲ある若者たちに魅力ある施設を！

成果を上げてきました。そして今、パンタナール
研究所の成果の一つとして、パクーの人工孵化が
成功し、稚魚の放流が行われるようになりました。
先号で紹介したマスタープランにおけるレダの
学術学園エリアには、東京ドーム85個分（2 Km×
2 Km）の敷地の中に、国立アスンシオン大学と共
同で、パンタナール研究の専門的施設をもち、パ
ンタナールの生態系の維持をはじめ、あらゆるパ
ンタナール関連の研究が可能となる学術・技術研
究センターを実現する計画です。同時に地域住民
宿願の医療センターも併設されます。（二面に続く）

レダ総合開発計画

Plan de Desarrollo Integral Sustentable de Leda
2015 - 2020 - 2025 - 2035

マスタープランを構成する事業群 **Proyectos que Componen el Plan Maestro**

2. 社会インフラ整備計画

Plan de Infraestructuras Sociales

学園施設群 Campus Universitario

201 小中学校
Escuela Elemental

202 農業高校
Colegio Agrícola

203 環境大学
Universidad Ecológica

206 学生寮
Internado Estudiantil

208 体育館
Gimnasia

公共施設 Edificios Públicos

204 教会
Iglesia

205 文化ホール
Auditorio Cultural

207 図書館
Biblioteca

住宅開発 Desarrollo Habitacional

251 日本伝統住宅
Casa tradicional Japonesa

252 エコハウス
Casas Ecológicas

253 三世代住宅
Casas de tres generaciones

(一面より続く) また、希少な動植物の特別保護区も設定されます。さらにその背後には、誰もがエコツアーを満喫することができる、自然観察園が展開して行きます。施設としては、アスンシオン大学の大学院との共同スペースとなります。

このエリアは、パンタナールの環境保全の砦ともなる場所です。森林伐採・焼却などに表れる、自然と人間の共存と相克の問題、また、オオアリクイ、オオカワウソ、スマレコンゴウインコ等、絶滅が危惧される動植物の保全なども緊急課題です。

これまでも南北米福地開発協会は、レダ基地周辺の、多くの先住民の村々の教育環境整備のために、学校の建設と学習教材の提供を17年間継続しています。先住民の村で学び育った学生が、国立アスンシ



豚の餌をボートで運ぶ大山氏



決壊した道路と流された橋

今レダ基地では 佐野氏からのレポート

果てしない自然との闘い

今年、年明けから、世界の株価が下落を続け、世界全体が大きな不安に包まれました。レダはそういう世界の情勢が縮図として表れるののように感じます。

一月に入ると同時に雨が異常に降り続け、ついには一月の降雨量は四九二ミリに達し、一九九九年以来の月間の最大降雨記録を更新しました。当地の年間降雨量が八〇〇〜一〇〇〇ミリ程度です。この雨量は大変なものです。その破壊力もすさまじく、集中豪雨による濁流が暴れるように森林から押し寄せ、レティロや豚ランドに行く道が決壊し、橋が押し流され、道路が断ち切れ、トラックで奥地に行けなくなりしました。

水位も急速に上昇し続け、一月には一七〇cmの上昇、二月は(二十七日現在)更に九〇cm上昇



火照った体を水浴びで冷やす。

連日の猛暑

猛烈な炎暑にあえぐと、急に激しい雨が降る日々の繰り返し。慣れたとはいえず、やはり暑い。人は毎日、汗だくのシャツを何度も取り替える。動物は木陰や水辺を求め、人も動物も、厳しい暑さを感じることには変わりはない！

(三面に続く)



左から2番目が牧童頭のシリロ・ロダ氏

一月十五日から1か月は、パラグアイ全国一斉の口蹄疫の予防接種をする期間になっていました。しかし、この時に豪雨に見舞われたため、開始時期が1か月延期されました。各所で道路が寸断され、監査役の政府の役人にとって、各牧場へのアクセスが難しくなっていました。

私たちのレダ牧場においても、道路が寸断された今、一〇〇〇頭に近い牛を川を越えてレダ基地まで連れてくることは不可能に近く、牛のベースがあるレティロで予防接種を行うことになりました。レティロに臨時の施設を造り、屈強な牧童を臨時に補強して、備えています。予防接種が終了したら、販売のための二〇〇頭位を、寸断された川を渡らせて、レダに連れてくることになっています。

熾烈な自然を克服するレダプロジェクト (豪雨と闘う牧畜プロジェクト編)

し、二〇一一年及び二〇一四年の過去最高水位まであと二m弱となりました。例年水位は六月ぐらいまでは上昇し続けますから、今後の水位の動きに戦々恐々です。

給水塔のメンテナンスが完了



長い間懸案であった給水塔の修復が、皆様のご協力によって、ついに成すことが出来ました。底には大量の泥土が堆積しており、塔の内壁にはたくさん貝類が付着しておりました。業者によれば内部の状態は比較的良好とのことでしたが、今回深刻なダメージを受ける前に補修をすることによって、この塔の寿命を大きく延ばすことが出来たとのことでした。特殊な防水ペンキが内外に施され、さらに10年間は問題ないそうです。これからレダのシンボルとして、末永くそびえていくくれることと思います。

養殖魚の整理・整頓作業



パクーの養殖池で稚魚を整理する。

魚はどんどん成長します。魚の成長度合いに従って、養殖池にいる魚の数を調整して、魚の生きるスペースを確保してやらなければなりません。現在、上山氏が日本に帰国中のため、中国中のため、中田所長がすべてに責任を持って魚の整理整頓を

があるのにびつくりしました。今年には約十万匹の稚魚を放流できそうです。



稚魚は元気に成長し続けている。

しています。同じときに生まれた魚でも成長ぶりや大きさが異なり、大ききと違っても

パラグアイ軍艦レダに寄港



レダ基地に接岸した軍艦。



レダ基地大食堂で美味しい夕食。

三月九日午後五時半、パラグアイの持つ最大の軍艦がレダの港に寄港しました。艦長以下35名の構成で、新しい海兵隊の訓練を兼ねてアスンシオンからバイアネグラまで往復すること。その途上、私たちの港に立ち寄り一夜停泊したいとの連絡が事前にあり、私たちは羊と豚とパクーをほふって最大限の歓迎をしました。海兵隊員たちは、ふんだんな食事を満喫したのち、テレビでサッカーの試合を観戦したり、ある人はプールで泳いだりしてひと時の息抜きをしていました。そして艦長と女性隊員三人はゲ

ストハウスに泊めてあげました。艦長は我々の心からのもてなしにとっても感謝して、何度もお礼を述べて、翌朝、六時前に出航していきました。

アメリカより北中氏到着



北中氏と空軍機。

レダに人員が少なくなったとのことで、急きよアメリカから北中氏が応援に駆けつけてくれました。二月二十二日にはアスンシオンに到着していたのですが、天候が不順で、二週間もの間ミリタリー機が飛行できず、三月八日の火曜日ようやくバイアネグラの飛行場に降り立つことが出来ました。人手が少ないこの時期、いつも熱心な北中氏を迎えられて、とても感謝です。

各地で洪水の警戒態勢に入る

今、オリンポでは土手の補修作業や排水ポンプの点検がなされています。また近くのブラジル人の牧場では、牛の移動や販売がなされています。いろいろな情報によれば、今年は川の水位が相当上昇するとの予想で、各地とも警戒態勢に入りました。私たちも昨年、堤防を1mかさ上げしましたが、その範囲内で収まってくれることをただ祈るばかりです。

排水溝を閉じる！

レダではすでに川の水位が排水溝の出口を超え、水の逆流を防ぐためにすべての排水溝を塞ぎました。



排水溝を塞ぎ排水管を埋める。

それ故、汚水の排水はポンプを使うしかなくなりました。三月初めに排水溝を閉じたのは初めてです。下水口の端にたまった水を数か所ポンプで排水しています。今後、少なくとも水の下がり始める八月過ぎまではこの状態が続きます。(佐野記)

来日中の伊達勝見氏に質問しました

①レダでの担当業務 本来は植樹園の育成と管理。しかし人員の慢性的な不足により、農業、発電機、食事などの業務全般も担当します。

②レダで苦心したこと 時間作り。雨季は雑草がすさまじく繁殖し、乾季は幼木への灌水が大仕事です。果樹の繁殖では、挿し木や接ぎ木の成功率をいかに上げるか、苦しみました。堆肥作りもはじめは困難でしたが、土着菌の活用に成功してからはいまよく行っています。新しい車と草刈機は、労働力不足を補ってくれて感謝です。



新しいトラックが到着し、機動力アップ。

③将来の抱負 パクーや豚の飼料となる木、例えばアルガロボを10m間隔で植え、野菜の栽培もできる森林農園のモデルを作りたい。またレダに来る青年たち向けに、植樹と森づくりの意義を学べるプログラムも考えています。

④日本滞在中にしたいこと 情報収集や勉強。日本の優れた専門家のいる現場を訪問し、



果樹のポット苗に灌水する伊達氏。

技術体験などをしてみたいです。

⑤日本の皆様へ一言 レダは現地に行かないと本当には分からないことが多くあります。一年間くらい滞在してみてください。自分自身の問題として取り組むことが大切だと思います。

第十六回青年奉仕隊員募集!!

本年も国際協力青年奉仕隊を派遣します。あなたの若い日に、地球の反対側に飛び、汗を流して異文化の人々と心を通わせる奉仕活動！
原初の姿の大自然に触れ、自分自身を脱皮して、未知の可能性に挑戦してみませんか！

期間 八月二四日～九月十一日（予定）

プログラム レダ近隣地域での奉仕活動、レダでの活動体験（開拓・植樹・栽培・牧畜・養殖・釣り・乗馬など）、首都アスンシオン、メノナイトの築いた都市ロマ・プラタ、先住民の村、イグアスの滝などの見学・観光など（予定）

参加費 十五万円（参加者の負担額）

主催 一般社団法人 南北米福地開発協会

応募締め切り 一次選抜 四月三十日、二次選抜 五月三十一日 応募は健康な方に限ります。

連絡先 office@asd-nsa.com（担当 島田賢二）



折り紙教室（バイア・ネグラ）



植樹奉仕（レダ基地新植樹園）

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）
記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール：office@asd-nsa.com
ホームページ：http://asd-nsa.com

会員種別

- ◆会員一口1000円／月
- ◆特別会員一口1万円／月
- ◆法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

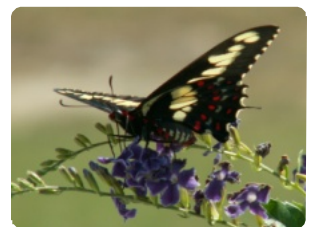
会費は、毎月の引き落とし方式です。
会費振替用口座 ゆうちょ銀行
00290-5-113072

加入者名：シャ 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局
office@asd-nsa.com
へお願いします。